



# 木童通信 vol.48

平成 25 年 12 月発行

木童 東京ショールーム

open 月～金 10:00-18:00 土 11:00-17:00  
close 日・祝(事前予約いただければ日祝の見学も可能です)

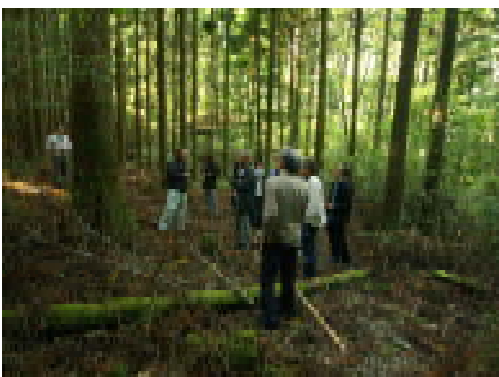
東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティ1F  
TEL:03-5358-5125 FAX:03-5358-5126  
URL:http://www.kodoh.co.jp E-mail:Tokyo@kodoh.co.jp

木童 神戸事務所 兵庫県神戸市北区大沢町篠 437  
TEL:078-954-0072 FAX:078-954-0257  
E-mail:muku@kodoh.co.jp

## ★木童の産地研修ツアー

旅に出るのはとても良いことです。まして、目的がはっきりしている旅は持ち帰れるものも多くあるような気がします。切旬(※1)に入った10月中頃、高知県に土佐杉・魚梁瀬杉・土佐桧(四万十桧)を見に、家づくりの会一木の研究会の建築家11名を引率して訪問してきました。

地産地消という事で、主に関東の材を使用している方、まあ出来れば国産材を使いたいと考えている方などに参加いただきましたが、原木市場や山に入ってからの間伐等の山の手入れの勉強会、そして土佐派と云われる建築家の建てた建築物、最先端の加熱蒸気式乾燥機を見学して、夜は県の林務部や製材、加工業の方々々と美味しいものをアテに語り合いました。参加者たちにもきっと、何か感じるものがあったらと思うています。



さて、木童が気に入る産地の特徴は“乾燥が上手な生産者がいること”に尽きます。木材生産者が良く言われる「うちの杉は色がきれいな、他の地域の杉に比べて強度がある」(高知県の方も言っていました(笑))はあまり参考にしていません。

この高知県にも、キラリと光る生産者が居ました。8寸角の大黒柱を乾燥できる、ましてや背割り(※2)せずに乾燥できる技術を持っているのです。多くの工場に視察に出向いておりますが、これは初めての経験でした。建築家と一緒に建てる木造住宅は、技術的な要求度合いの高い物もあり、高知はそれに対してお応えすることのできる産地の一つと考えます。もちろん、使用する木材の産地の風土や人情を感じられることも設計に携わるの方々にとってプラスになるでしょう。色々な産地に出向く勉強熱心な諸先生方！頑張ってください。

※1切旬：樹木が水も吸い上げず成長も停止する10月～翌年3月あたりに木材を伐採します。特に地松はこの時期を外して伐採したものはアオ(青)と言われるカビが入ります。  
※2背割り：主に柱の一面に、乾燥収縮による割れを防ぐために鋸を入れる事。



## ★木のチヨイ知識。



釘とビス

日本の建築は釘の文化です。それは比較的軽軟な直材の杉・桧等の針葉樹が使われてきたことに所以します。それに対してヨーロッパはビスの文化といえます。馬車の車輪にオーク(樺材)を使い、組立や固定にビス(ねじ)が使われました。硬い木材を使う文化からビスが生まれたと言われています。



木材の温度

気乾比重(※3)(木材の密度)が、高いほど冷える木材といえます。代表的な樹種として檜0.67g/cm<sup>3</sup>・カバ0.69g/cm<sup>3</sup>があり、硬く傷つきにくいことからよくフローリングとして使われています。その反対に杉は0.38g/cm<sup>3</sup>。数値の低さは、空気を多く含んでいるため冬場でも冷たくなりやすいことを示しています。確かに檜やカバに比べると傷はつきやすいのですが、裸足で床を歩く日本の家には適しているかもしれません。ちなみにバルサ材は0.1/cm<sup>3</sup>、セラガンバツは0.97/cm<sup>3</sup>です。



なぜ乾燥材?

住宅用建材として杉・桧・松等の針葉樹が使われますが、平衡含水率(※4)は15%程度です。木材はこのレベルに達すると①強度が上がる②寸安定が高まる(変形しづらい)③接着や塗装性が向上する④シロアリや腐朽菌に対する抵抗力が増すと良いことづくめ。だから乾燥材が求められています。「天然乾燥で3ヵ月乾かしました」と言う製材業者もいますが、「それはグリーン材(生材)です」と言ってあげてください。たった3ヶ月の天然乾燥では含水率はほとんど変わりません。

※3気乾密度：同じ体積の水の重さと比較した値。1を超えると沈む。  
※4平衡含水率：その土地で安定する含水率。地域によって若干の差がある。

## ★家づくり現場れば①

～鉄肥赤杉・球磨桧 設計:アトリエフルカワ 施工:山洋工業～

アトリエフルカワさんはKINOIESEVEN(※)のメンバーの一人です。今回初めて構造材&プレカットから一緒にお仕事することになりました。構造材・羽柄材は、宮崎県産の鉄肥赤杉と球磨桧。宮崎にある乾燥技術が高く、信頼している製材所より、千葉にあるプレカット工場に材を運び、建築地に近い所でプレカットをしました。



建築地は道が狭く運搬車が入らなかったため、近くに車を止めて大工さん、監督、プレカット会社の方と一緒に手運び、手起しをしました。人数が多かったことありますが、順調に作業が進み、14時には上棟、垂木も掛ける事が出来て、現場の段取りの良さも伝わってきました。

山洋工業さんとは今までも何度も一緒に仕事をしています。監督さんからは「やっぱり木童さんの材料は良いな～」とお褒めの言葉を頂きましたので、早速産地の方々に連絡。現場の声を届けるのも木童の大事な役割です。お互いの仕事が見えることで次の仕事の意欲へとつながっていくからです。

今年度は、「消費税」や「木材利用ポイント」等で、住宅着工数も例年より多く、国産材の出荷量も増えており、全国的に工場は忙しく動いています。木童の協力工場も例外ではなく、丸太を揃えることが難しい状況の中で、納期の遅れが出ないように動いてくれています。職人さんも休日も無く仕事をしてくれています。無事上棟できた貴組を前に、この住宅に関わる全ての方々への感謝の気持ちが湧いてきました。



## ★家づくり現場れば②

～鉄肥赤杉・相生杉・からパネル・北前ヒバ～(設計:Kei設計 施工:神東建設)



都市部にありがちな旗竿地に建つ住宅です。(お陰で素人カメラでは外部の写真はまったくうまく撮れません…。)しかしそんな立地だからこそ、割り切って室内に重きをおいた仕上がりになっていました。

四方を囲まれているとは思えない明るいLDKには杉の温かさが感じられ、ゆったり取られたパウダールームにはヒバの爽やかな香りが満ちています。



施主さんも壁の漆喰塗りや天井の格子作製、床の桐油塗装等積極的に家づくりに参加され、その過程を楽しまれていました。家族に長く愛される家が出来た気がします。

## KODOH NEWS

- 木童の年末年始 12/29(日)～1/5(日)までお休みをいただきます。
- 木材利用ポイントで交換できる木の家具カタログを製作中です。木童の木を使っていたいただいた方はもちろん、別のメーカーの材料が使われた方もOKです。木童セレクトの“木の家に似合う家具”をぜひご一考ください。

カタログ請求はこちらから→ Tokyo@kodoh.co.jp or FAX:03-5358-5126



## 企画展のご案内 [木童オペラシティショールーム内]

- 第156回企画展 12/2(月)～12/7(土) KINOIE SEVEN～ひとり展 半田雅俊設計事務所/自然素材のマンションリフォーム ※12/7(土)は住宅相談会(無料)を開催。
  - 第157回企画展 12/9(月)～12/27(土) 葦に住む/0設計室 大澤匠 12/14(土) 12:30～14:00 「土を語る」左官職人長田幸司氏のトークセッションを開催。
  - 第158回企画展 1/20(月)～1/25(土) 木の家だいすきの会主催
  - 第159回企画展 1/27(月)～2/1(土) KINOIE SEVEN～ひとり展 BUILTLOGIC(ビルトロジック)/石黒隆康 ※2/1(土)は住宅相談会(無料)を開催。
- ※木童通信をHPよりダウンロード出来ます。バックナンバーをご希望の方はこちらをご利用下さい。